

## テレビドラマに描かれた教師像 —現場の教員に求められている資質とのギャップは何か—

大木 綾美

2015年に中央教育審議会がこれからの時代の教員に求められる資質能力を示した。これに対し、社会からの求めに応じることができていないと指摘されている。

社会が求める教師像の一面を表すものとして、テレビドラマに描かれた教師像に関する研究が時代ごとになされてきた。近年の研究では、1960年代から「熱血教師」が描かれるようになり、現在でも「熱血教師」の姿は変化していないことが明らかになった。また、児童生徒とともに学び続けていく教師、多様性やマイノリティへの既存の制度や価値を疑っていき姿勢を持つ教師がテレビドラマに描かれていると示された。しかし、その調査対象は数が少なく、量的調査は行われていない。

本研究は、長期的視点および多数の作品からテレビドラマにおける理想の教師像を明らかにするとともに、そうした教師像と現実に要求されている教師像の違いを明らかにすることを目的とし、2010年代のテレビドラマ9作品、計87本を対象に、教師の行動シーンを分析項目に基づき、計測し分析した。分析項目は、2015年に中央教育審議会によって示された「教員に求められる資質能力」を基に抽出した。

その結果、テレビドラマに描かれた教師像として、以下の4つの特徴が明らかになった。

- ① 「熱血教師」の特徴を示すともいえる、学校の内外を問わず、生徒との関わりを多く持つ教師
- ② 児童生徒を理解するために、1人の友人としての存在、対等な存在等、児童生徒と様々な関係性を築くことができる教師
- ③ 教師の行動や言葉によって、ほかの教師や親の行動を変える等、児童生徒だけでなく、ほかの教師や親に影響を与える教師
- ④ 性的マイノリティやADHDの生徒への対応等、現代の学校に顕在化する多様性への理解・抵抗なく受け容れることができる教師

こうした教師像と現場の教員に求められる理想の教師像を比較すると、テレビドラマに描かれた教師像は、生徒指導を重要視している傾向があることが明らかになった。

これらの知見は、社会からの求めに応じることができていないと指摘される中央教育審議会が示す「これからの時代の教員に求められる資質能力」を現実との兼ね合いから検証するための、材料を提示できたと考えられる。

本研究は、調査対象を2010年代のテレビドラマ9作品としたが、調査対象を広げるとともに、実際に現場に立つ教師に調査を依頼することで、さらに大きな成果が得られると期待できる。

(指導教員 辻 泰明)